

宿題解答例

- 1 次の巾級数は、どんな x について収束するか？またどんな関数を表すか？

$$\sum_{n=0}^{\infty} \frac{x^n}{(3+(-1)^n)^n} = 1 + \frac{x}{2} + \frac{x^2}{4^2} + \frac{x^3}{2^3} + \dots$$

(解答例) $|x| < 2$ のとき、 n 次の項の絶対値は $\left(\frac{|x|}{2}\right)^n$ でおさえられ、 $\sum \left(\frac{|x|}{2}\right)^n$ が収束するから、この巾級数は収束する。また、 $|x| \geq 2$ のとき、 n が奇数ならば n 次の項の絶対値は $\left(\frac{|x|}{2}\right)^n \geq 1$ 。よってこの巾級数は発散する。偶数次の項を集めた級数は

$$1 + \frac{x^2}{4^2} + \frac{x^4}{4^4} + \dots = \frac{1}{1 - (x/4)^2} = \frac{16}{16 - x^2} \quad (|x| < 4)$$

奇数次の項を集めた級数は

$$\frac{x}{2} + \frac{x^3}{2^3} + \frac{x^5}{2^5} + \dots = \frac{x/2}{1 - (x/2)^2} = \frac{2x}{4 - x^2} \quad (|x| < 2)$$

だから与えられた巾級数の和は $\frac{16}{16 - x^2} + \frac{2x}{4 - x^2}$ ($|x| < 2$)。

- 2 次の関数を 0 を中心とする巾級数で表せ

$$(1) \cosh x \quad (2) \frac{1}{x^2 + x - 2} \quad (3) \log \sqrt{\frac{1+x}{1-x}} \quad (4) \tan^{-1} x$$

(解答例)

$$\begin{aligned} (1) \cosh x &= \frac{1}{2}(e^x + e^{-x}) \\ &= \frac{1}{2} \left\{ \left(1 + x + \frac{x^2}{2!} + \frac{x^3}{3!} + \dots\right) + \left(1 - x + \frac{x^2}{2!} - \frac{x^3}{3!} + \dots\right) \right\} \\ &= 1 + \frac{x^2}{2!} + \frac{x^4}{4!} + \dots \quad (x \in \mathbf{R}) \end{aligned}$$

次のようにしてもよい。(以下も同様)

$$\begin{aligned} \cosh x &= \frac{1}{2}(e^x + e^{-x}) \\ &= \frac{1}{2} \left(\sum_{n=0}^{\infty} \frac{x^n}{n!} + \sum_{n=0}^{\infty} \frac{(-x)^n}{n!} \right) \\ &= \sum_{n=0}^{\infty} \frac{(1 + (-1)^n)x^n}{2n!} = \sum_{k=0}^{\infty} \frac{x^{2k}}{(2k)!} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
(2) \quad \frac{1}{x^2+x-2} &= \frac{1}{3} \left(\frac{1}{x-1} - \frac{1}{x+2} \right) \\
&= \frac{1}{3} \left\{ (-1-x-x^2+\dots) - \left(\frac{1}{2} - \frac{x}{2^2} + \frac{x^2}{2^3} - \dots \right) \right\} \\
&= -\frac{2+1}{3 \cdot 2} - \frac{2^2-1}{3 \cdot 2^2} x - \frac{2^3+1}{3 \cdot 2^3} x^2 - \frac{2^4-1}{3 \cdot 2^4} x^3 - \dots \quad (|x| < 1)
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
(3) \quad \log \sqrt{\frac{1+x}{1-x}} &= \frac{1}{2} (\log(1+x) - \log(1-x)) \\
&= \frac{1}{2} \left\{ \left(x - \frac{x^2}{2} + \frac{x^3}{3} - \dots \right) - \left(-x - \frac{x^2}{2} - \frac{x^3}{3} - \dots \right) \right\} \\
&= x + \frac{x^3}{3} + \frac{x^5}{5} + \dots \quad (|x| < 1)
\end{aligned}$$

$$(4) \quad \frac{1}{1+x^2} = 1 - x^2 + x^4 - x^6 + \dots \quad (|x| < 1) \text{ の両辺の不定積分をとって}$$

$$\tan^{-1} x = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{(-1)^n}{2n+1} x^{2n+1} = x - \frac{x^3}{3} + \frac{x^5}{5} - \frac{x^7}{7} + \dots \quad (|x| < 1).$$

(注) 問 [4] の結果から、この巾級数は $[-1, 1]$ で一様収束し、その和は連続関数である。したがって上の等式は $x = \pm 1$ でも成り立つ。

[3] $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{2^n} \sin(nx)$ は \mathbf{R} で一様収束しその和は C^1 級関数であることを示せ。

(解答例) $f_n(x) = \frac{1}{2^n} \sin(nx)$ とおくと $\sum \|f_n\| = \sum \frac{1}{2^n}$ が収束するから $\sum f_n$ は \mathbf{R} で一様収束する。したがって、その和 $S(x)$ は連続関数である。また $f'_n(x) = \frac{n}{2^n} \cos nx$ で、 $\sum \|f'_n\| = \sum \frac{n}{2^n}$ が収束するから $\sum f'_n(x)$ は \mathbf{R} で一様収束する。その和は連続で $S'(x)$ に一致する。

[4] (関数項交項級数に関するライプニッツの定理)

$f_n(x)$ ($n = 1, 2, \dots$) は区間 I 上の関数で次の条件を満たすとす：

$$(ア) \quad f_n(x) \geq 0 \quad (x \in I) \quad (n = 1, 2, \dots)$$

$$(イ) \quad f_1(x) \geq f_2(x) \geq \dots$$

$$(ウ) \quad \|f_n\| \rightarrow 0 \quad (n \rightarrow \infty)$$

関数項級数

$$\sum_{n=0}^{\infty} (-1)^{n-1} f_n(x) = f_1(x) - f_2(x) + f_3(x) - f_4(x) + \dots$$

の第 n 部分和を $S_n(x)$ で表す。

(1) 偶数番目の部分和は増加列 ($S_2(x) \leq S_4(x) \leq S_6(x) \leq \dots$) , 奇数番目の部分和は減少列 ($S_1(x) \geq S_3(x) \geq S_5(x) \geq \dots$) をなすことを示せ。

(2) この級数が各点収束すること（すなわち $\{S_n(x)\}$ が各点収束すること）を示せ.

(3) この級数の和を $S(x)$ とするとき $\|S_n - S\| \leq \|f_n\|$ が成り立つことを示せ.

(解答例)

$$(1) \quad S_{2n+2}(x) - S_{2n}(x) = f_{2n+1}(x) - f_{2n+2} \geq 0 \quad (n = 1, 2, \dots)$$

だから $\{S_{2k}(x)\}_{k=1}^{\infty}$ は増加列である. また

$$S_{2n+1}(x) - S_{2n-1}(x) = -f_{2n}(x) + f_{2n+1} \leq 0 \quad (n = 1, 2, \dots)$$

だから $\{S_{2k-1}(x)\}_{k=1}^{\infty}$ は減少列である.

(2) 各 x について, $\{S_{2k}(x)\}$ は増加列で, $S_{2k}(x) \leq S_1(x)$ だから上に有界. よって収束する. 同様に, $\{S_{2k-1}(x)\}$ は減少列で, $S_{2k-1}(x) \leq 0$ だから下に有界. よって収束する.

$$\lim_{k \rightarrow \infty} S_{2k-1}(x) - \lim_{k \rightarrow \infty} S_{2k}(x) = \lim_{k \rightarrow \infty} f_{2k}(x) = 0$$

だから $\{S_n(x)\}$ は収束する.

(3) $S_{2k}(x) \leq S(x) \leq S_{2k+1}(x)$ だから

$$0 \leq S(x) - S_{2k}(x) \leq S_{2k+1}(x) - S_{2k}(x) = f_{2k+1}(x).$$

また $S_{2k}(x) \leq S(x) \leq S_{2k-1}(x)$ だから

$$0 \leq S_{2k-1}(x) - S(x) \leq S_{2k-1}(x) - S_{2k}(x) = f_{2k}(x).$$

これより, すべての番号 n について

$$|S_n(x) - S(x)| \leq f_{n+1}(x)$$

が成り立つ. I における上限をとれば,

$$\|S_n - S\| \leq \|f_{n+1}\|$$

が得られる. $\|f_{n+1}\| \leq \|f_n\|$ だから

$$\|S_n - S\| \leq \|f_n\|$$

も成り立つ.

(*) したがって, この関数項級数は区間 I で一様収束する.

(例) 巾級数 $x - \frac{x^2}{2} + \frac{x^3}{3} - \frac{x^4}{4} + \dots$ は閉区間 $[0, 1]$ で一様収束する.

また $x - \frac{x^3}{3} + \frac{x^5}{5} - \frac{x^7}{7} + \dots$ は $[-1, 1]$ で一様収束する.